

Interview with

ニイミ産業株式会社

安定した通信品質と 利用のしやすさが導入の決め手！ 業務効率の向上に期待

ホームサービス部 常務取締役 榊原 敦氏
ホームサービス部 本部 直売統括 次長 渡邊 嗣仁氏



課題

- ・通信方式変更でかかる大きなコスト
- ・アナログな検針業務による進まないDX化
- ・コロナ禍による対面業務の制限

採用理由

- ・高い安定・安全な通信と高い経済性
- ・豊富な入カインターフェース（検針+2 接点接続）
- ・通信端末の効率設置かつ誤設置防止を支援するプラットフォーム

Profile

ニイミ産業株式会社について

ニイミ産業はLPガス・石油・ガス機器等の販売から様々なサービスを展開している、創業から130年の歴史ある会社です。ホームサービス部では、ガスをお届けするだけでなく、お客様に「うれしい！」をお届けすることをモットーに、より安全・快適な生活をサポートできるよう、LPガスやリフォームの提案も行っています。



検針業務の歴史

通信方式の変更のたびにかかる大きなコストから手検針の運用に変更

自動検針や集中監視に、ISDN や ADSL といった電話回線が利用されていた当時、ニイミ産業も半数以上の一般家庭で、自動検針を実施していました。しかし、技術革新が早い時代でもあり、通信方式変更のたび通信端末取替にかかる大きなコストと、通信端末変更で変わる取付工事方法の負担が大きな課題となっていました。更に、顧客件数も軒並み増え続け負担が増大したことを機に、自分たちの担保が難しくなり、15 年程前に手検針に戻した過去があります。取得していた認定販売事業者も国に返上し、定期供給設備点検は 10 年に 1 回から 4 年に 1 回の検針に戻ることも覚悟の上での大きな決断でした。

導入の経緯と課題

コロナ禍を機に手検針から再び自動検針の検討を開始

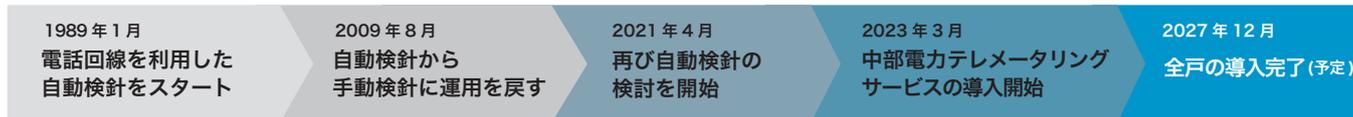
ニイミ産業は、営業施策として営業所の分散方式をとっています。拠点数が多くなるほど情報共有や業務の標準化が難しく、DX化が必要でした。検針業務もその1つで、検針情報のデジタル化と即時性が必要と感じてきていました。自動検針への関心は完全に捨てたわけではなく、情報は適度に仕入れていましたが、やはり過去に経験した、通信方式変更にもなう大きな通信端末取替コストがネックになり、導入をためらってしまう部分がありました。そのような中で、コロナ禍により、人と対面する機会が制限され検針業務の見直しをする機会が訪れました。当時の日本経済新聞の記事で、中部電力がガス事業者向けにテレメータリングサービスを開始したことを知り、問い合わせたことが始まりです。詳しく調べていくと、現状の手検針と比較して導入のメリットが大きいことが分かり、再び導入を考えるきっかけとなりました。



7社を比較検討した結果、中部電力のテレメータリングを採用

導入には慎重に、7社の比較検討を続けてきました。その中で、中部電力がもつ、「高い通信品質」「安定・安全な通信」「高い経済性」や通信端末の誤設置防止かつ効率的な設置が可能となる「取付支援 for Mobile」といった業務サポートするシステムの充実があり、中部電力のテレメータリングサービスの導入に踏み切ることができました。

ガススマートメータ導入の流れ



採用理由

高い安定・安全な通信と高い経済性

中部電力のテレメタリングサービスは、主に自社設備でネットワーク環境が構築されています。その仕組みを自身の電力業務に利用しているため、通信方式変更への対応に安心感があります。また、国の社会インフラを担う企業でもあり、突然のサービス停止による通信端末取替リスクが極めて低いところも評価しました。更に、山間部も多く、他社サービスの通信ではつながらない事象が散見される中、中部電力の通信は山間部でも届きやすく、通信品質が高いことも採用理由の一つです。また、電波強度の得意不得意箇所をマルチキャリアの通信でカバーしてしまうと、通信端末ごと取付方法が異なり、現場の取付作業のオペレーションが煩雑になります。そのため、シングルキャリアを志向する中、中部電力のサービスが我々の考えに合致しました。前述のようなメリットがある上で、さらにプラットフォームを含めたサービス料金、通信端末のコストが他社と比較しても優位だったことも大きな決め手の一つです。

豊富な入力インタフェース（検針+2 接点接続）

ニイミ産業では、バルク供給を行っているお客様も多くいます。バルクの残量警告（40%と20%）の通知を受け取るには2接点必要です。メーカーによっては、2接点確保するために通信端末を2台取付たり、プラス料金がかかるなどの複雑な料金体系もありました。

中部電力の通信端末は、1台でメータに加え、バルク残量計のような接点機器を2つ接続することが可能です。さらに通信端末費用と通信費用だけのシンプルな料金プランで、登録費用、休止料といった追加料金が発生しないことも魅力でした。



通信端末の効率設置かつ誤設置防止を支援するプラットフォーム

プラットフォームには中部電力の中電 MDMS（メータデータ運用管理システム）を採用しました。通信端末の取付を支援するアプリ「取付支援 for Mobile」が標準で付いており、通信端末とその端末の取付先であるお客様の紐付けが同時に簡単・確実に行えます。もし、取付作業前に通信端末と取付先の紐付けが必要だった場合は、オペレーションの複雑さ、通信端末の管理負荷や取付間違いのリスクもありますが、このプラットフォームは、現場に取付たその時に紐付けるので、事前の紐付け等の煩雑な管理が不要で、現場で手に取ったどの端末でも取付けることが可能なため取付間違いも防止できます。取付現場では、社員に配布していたスマートフォンをそのまま活用しています。コロナ禍の影響もあり、各営業所からのアクセスや社外で仕事をするスタイルにも対応できるクラウド型サービスであることも重要なポイントでした。

取付支援 for Mobile の4つの特長

The features are presented in four numbered boxes. Feature 1: '特長1' (Feature 1) shows a smartphone with 'メータ社番 1234' and a meter, with text '訪問先にメータが多数ある場合でもメータ社番照合で取付ミスを防ぐ' (Even when there are many meters at the visit location, use meter company number verification to prevent installation mistakes). Feature 2: '特長2' (Feature 2) shows a smartphone with a camera icon and a meter, with text '通信端末の紐づけを現地で行うため事前の管理負荷を大幅に削減' (Performing terminal connection on-site significantly reduces pre-connection management burden). Feature 3: '特長3' (Feature 3) shows a smartphone with a location pin icon and a computer monitor, with text '取付けた端末をGPS登録することで、アラーム発生時に地図上で発生箇所を確認できる' (By registering the installed terminal with GPS, you can confirm the occurrence location on the map when an alarm occurs). Feature 4: '特長4' (Feature 4) shows a smartphone with a checkmark icon and a meter, with text '取付後、その場で疎通確認を行い正しく設置できているかの確認が可能' (After installation, you can confirm communication on-site to ensure correct installation).

さらにポイント！
・通信端末の取付先などの情報をまとめたリスト作成などの作業が不要
・現地で紐づけを行うため、どの通信端末を設置してもOK

将来のビジョン

配送のタイミングを効率よく精密に

ガスファンヒーターが設置されている家庭は、冬の急激な使用量の増加でガス切れのリスクが発生します。営業担当は月1回の検針日の半分にあたる15日にガス残量のチェックで検針に回り、ガス切れを防止に努めています。それでも突発的にガスの需要予測を超える使用量（300%~400%）が発生した場合はガス切れが起きてしまいます。それらの対応が、スマートメータの導入で、自動で日次の検針値が取得できるようになります。さらに、中部電力の端末では1時間値の精緻なデータを取得できるので、今までにない正確な予測が可能になります。ニイミ産業が目指しているガス切れ0の実現と業務効率化に大きな期待を寄せています。今後は、精緻で確実に取得できる検針データを活用して、全量取替や配送ルートの効率化といった業務改善にも注目しています。

DX化は当たり前!? お客様へより安全・快適な生活をサポート

ニイミ産業ではLINE公式アカウントを活用し、様々な企画やお役立ち情報の発信を行っています。今後はこのようなデジタルツールを活用しDX化を積極的に進めていきたいです。スマートメータによる自動検針もDX化の第一歩と考えています。今後はWeb上からいつでもどこでもガス使用量の確認が行えることを当たり前に行っていきたいです。

お問合せ先

0120-977-228

・携帯電話からの方：052-740-6836
・受付時間：月曜日～金曜日 10:00-17:00(祝日・年末年始除く)



中部電力

Chuden Telemetering LLC
中電テレメータリング
合同会社